

《Meet the Master Clinician》

見逃し症例から学ぶ日常診療
のピットフォール

生坂政臣 著

野村 馨(東京女子医科大学病院一次診療外
来)

本著ではプライマリ・ケアの現場から 57 症例が紹介され、その診断治療、それに関して従来での医学教育、研修では見落とされてきたような診断の要点(ピットフォール)が語られている。さらに鑑別診断や検査の妥当性などを紹介するミニレクチャーやプライマリ・ケアをめざす医療者へのアドバイスを語るマスター・アドバイスが随所に記載されている。

全体を読めば著者の生坂政臣先生がめざしているプライマリ・ケアとは、各専門分野からの切り貼り細工により行われるものでなく、それを再構成して行われる新たなものであることが実感される。しかも外来診療と研修にかける著者の情熱と楽しみが共感できる好著である。大上段からプライマリ・ケアの理念を説くのではなく、具体的な症例をもとにプライマリ・ケアとは何かを見事に紹介している。本著はこれからのプライマリ・ケア診療とは何かを照らし出したガイドブックであ

る。プライマリ・ケアをめざす人にはぜひ読んでいただきたい。また、日々忙しい診療に携わっている方々にも今までになかったお得な教科書として手にとっていただきたい。私は一度読了した楽しみの後は、紹介された診断技能を引用する How to 本としても利用させてもらうつもりである。

著者は「このシリーズには、見逃しても生命予後に影響のない日常病も掲載されている。たとえ軽症疾患でも病名と病態を説明することは、患者中心医療の基本であり、また診断名のつく診療は他ならぬ医師自身のやり甲斐を増すことになる。良質な医療の永続的供給には、患者だけではなく医師も満たされなければならない」(「はじめに」より)と述べている。このことは当たり前のようで当たり前でなかった現状がある。筆者も大学病院で「一次診療外来」を担当していて深く共感できるところである。系統的に細分化された疾患分類では軽症で自然治癒する疾患はその存在すら忘れがちである。頻度の高い日常病としてプライマリ・ケアの病名コードにしっかり登録し、その診断技術を確認しておく必要がある。本著がさらに発展することを熱望するゆえんである。M

● A5 判 頁 192 2003 年

定価 3,885 円(本体 3,700 円 + 税 5%)

[ISBN 4-260-10291-5] 医学書院刊